

自己評価書

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取組を行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めてください。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- グループホームの自己評価は、各ユニットごとに行います。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日ごろの実践や改善への取組を示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支え合い	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

〔取組の事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取組状況を具体的かつ客観的に記入します。
(実施できているか、実施できていないかにかかわらず事実を記入)

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○を付けます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取組内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕(アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ころろ
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	宮城県気仙沼市東八幡前293番地
記入者名 (管理者)	村上 恵子
記入日	平成19年 9月 4日

地域密着型サービス評価の自己評価書

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	○	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくり上げている	・これまで生活してきた地域との関係性が継続できるような理念を掲げ、職員会議の場で話し合う機会を作った。	
2	○理念の共有と日々の取組 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・会議の場で話し合う機会を作り、理念の共有を行っている。	○ 定期的に話し合う機会を設け、理念を意識した入居者への働きかけを行ないたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	・施設に来た方が誰でもみる事のできるよう掲示した。事業報告書と事業計画書を料金案内と一緒に送付している。そのなかに、施設の理念もあわせて載せている。	○ 理念の内容についての説明を行って行きたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所との付き合い 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的な付き合いができるように努めている	・畑作業を近所の方に手伝っていただいている。時折菓子をいただいたり、お茶を一緒に飲んだりする事もできた。	
5	○地域との付き合い 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・施設の夏祭り、芋煮会などは、近所の方と一緒に参加できた。中学校の文化祭に招待されたり、中学生が草取りに来たり、施設前が通学路となっているので気兼ねな挨拶もできている。・運営推進会議に自治会の代表者が参加しているので、自治会でグループホームの事を報告してもらっている。	

項 目		○	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・特に取り組んでいない。	○	・隣接する特養と協力、検討しながら行っていく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・職員会議の場で自己評価について項目ごとに話し合っている。	○	・定期的に会議の場で話し合っていく。
8	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・入居者のサービス状況や日々の生活を報告している。出された意見については職員会議の場に持ち帰り検討し実施している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・運営推進会議の場での行き来のみにとどまっている。どのように連携をとればよいのか、誰に相談したらよいのかがわからない。	○	・今回の外部評価の際にアドバイスをいただき、市町村担当者との関わりについて勉強したい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・権利擁護と地域福祉権利擁護事業について資料を作成し、会議の場で配布した。	○	・権利擁護や地域福祉権利擁護についての理解を深める為、勉強会を開催したい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・毎月の会議のなかで、身体拘束についての確認を行っている。高齢者虐待と身体拘束についての資料をマニュアルとして配布した。	○	・全職員がマニュアルを理解するため、勉強する機会を設けたい。

項 目	○	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入居契約時に時間をとって説明している。		
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員及び外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議において、入居者代表からの意見や思いを言ってもらう機会を作っている。また、日頃の生活のなかで、入居者の細かな表情の変化などから思いを察する努力をしている。	○	・当地方における介護相談員の有無と派遣を確認し、可能な限り派遣してもらう。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・毎月郵送する料金案内と一緒に『こころ便り』を同封し、近況報告ができるようにしている。金銭の管理について、家族の面会時には小口現金出納帳を3ヶ月に一回確認してもらっている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員及び外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議の場で家族代表者から意見を聞く機会を作っている。また、苦情受付窓口を設け、玄関に掲示するとともに、苦情受付ポストを設置している。	○	・家族の意見が出しやすいよう、アンケートの実施を検討して行く。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聴く機会を設け、反映させている	・全体会議や職員会議の場で意見や要望を聞くよう心掛けている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・入居者の生活リズムに合わせたローテーションを組んでいる。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者がなじみの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・開設時から職員の異動はない。そのため、入居者との関係性が築きつつある。		

項 目	○	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取組 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・法人内での勉強会や研修会が月に1回以上あり、参加している。	○	・隣接する特養との交換研修を行い、介護技術の向上を図りたい。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	・気仙沼・本吉地方介護サービス法人連絡協議会のグループホーム会議に定期的に出席している。その時に他の施設職員との交流や情報交換を行っている。	○	・宮城県のグループホーム連絡協議会の会員ではないので、運営者と相談のうえ会員となり、研修など活用していきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取組 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・機会のあるごとに、日頃の悩みや相談する事がないか、確認している。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取組 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・職員の資格取得に向けた支援を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている	・入居前の実態調査で行っている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている	・入居前の訪問時にはゆっくり話を聞くようにしている。		

項 目		○	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・まず入居してもらうという考えが優先してしまい、本当に必要なサービスが何かを見極めなかった。	○	・今後は必要なサービスは何かを見極めながら、対応したい。
26	○なじみながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になじめるよう家族等と相談しながら工夫している	・必要な方に関しては、事前に施設に来ていただいた。・家族の方は必ず施設を前もって訪問していただいた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支え合う関係を築いている	・職員側からの一方通行になっているのでは？と思うこともあるが、結果が目に見えたり良い報告が聞かれる事があった。・本人の意志が優先だからと何もやらないでいると活動面のレベルが下がってしまうので、本人がやる気を起こさせるような状況を作っている。・入居者の方から教わったり、それぞれの役割を担っている場面もある。		
28	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・近況報告を行う際、レベルが低下したことなど、言いにくい事もあるが、家族へはしっかりと現状を報告している。その為、情報の共有化はできている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・面会回数の少ない家族についても広報誌の送付などで関係が薄くならないようにしている。・家族参加の行事を設けて、出席を呼びかけている。		
30	○なじみの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきたなじみの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・家族の協力を得ながら、馴染みの人との関わりを行っている。	○	・会話の中から懐かしい場所など出ているが、訪ねた事がないので今後行く機会を作る。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士がかかわり合い、支え合えるように努めている	・入居者同士の関係性については、会議等の場で情報を共有し、職員は把握している。日頃の活動や皆の集まるお茶の時間などに、職員が間に入り入居者同士の会話が出来よう配慮している。		

項 目		○	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らない付き合いを大切にしている	・現在のところサービス利用が終了(退所)した方はいない。	○	・サービス利用が終了した場合には、継続的な関わりができるようにしたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日頃の会話の中から、入居者が何を望んでいるのか、何をしたいのか、把握する努力をしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴やなじみの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居する際には事前の聞き取りのほか、家族からできる限りそのこれまでの生活を用紙に記入していただいている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・センター方式の『焦点情報』と『心身の情報』を活用し全体像の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアの在り方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・日頃から本人や家族から意見を伺うようにし、介護計画に反映できるようにしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・毎日のケア記録を記入する事で、介護計画の実施状況が確認でき、必要とあれば介護計画の見直しを図るようにしている。		

項 目		○	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気付きや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別毎にファイルを作成し、情報を共有している。ケース記録のほかに月毎のケア記録に記入することで、サービスが実施されたかの確認ができています。また、月毎の気付きを各担当職員が記入し、それを基にしながらケアプランも作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・希望が聞かれた際は外出し、対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・特に行っていない。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・希望が聞かれた際は、特養の訪問美容を活用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・運営推進会議に地域包括支援センターの職員が出席している。会議後に施設に寄って、入居者に声を掛けてもらっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・それまでのかかりつけ医を継続しながら通院の付き添いや薬取りなどは家族が行なう事と取り決めし、入居契約時に同意を得ている。		

項 目		○	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・相談できる医師は確保できていない。	○	・相談ができる認知症の専門医の確保について、運営者と話し合っていく。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・隣接する特養看護師と連携している。日頃から細かな情報提供を行っており、急変時や特変時などは24時間の協力体制ができています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・開所してから入院した入居者はいない。	○	・入院した時には本人が混乱しないように医療機関へ情報を提供していきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期の在り方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・重度化した場合について特に取り決めがない。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・重度化した場合について、特に取り決めがない。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・開設してから住み替えをする方はいない。	○	・今後住み替えをする事になった場合、細やかな情報を提供できるよう、サマリーの用紙を準備した。

項 目	○	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉掛けや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない	・会議の場で、日々の言葉遣いについての話し合う機会を作った。	○ ・記録物など、個人の情報管理について話し合う機会を作る。 ・言葉遣いについては、その都度管理者が職員に注意していく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働き掛けたり、分かる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・入居者に合わせた声掛けの工夫を行っており、自己決定が出来るよう心掛けている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	・基となっている1日の流れはあるが、一人一人のその日の体調などに配慮しながら対応している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・希望のある入居者については、家族の協力の下、馴染みの理美容へ出向いている。特別な行事の時は着替えたり化粧をするなど、おしゃれの習慣のある方については支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・献立を作る時は、入居者の希望を聞きながら立てている。また、入居者と一緒に採ってきた山菜を食卓に並べたりしている。	
55	○本人のし好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・たばこについては施設管理とし、希望時に、他入居者の迷惑にならないように喫煙場所を決め吸えるようにしている。飲酒についても同様に行っている。	

項 目		○	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排せつの支援 排せつの失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排せつのパターン、習慣を活かして気持ちよく排せつできるよう支援している	・排泄記録表を活用し、尿意がない入居者でも時間を見ながらトイレでの排泄を促している。・尿意のある入居者で失禁がある方でも、なるべくパットやリハビリパンツに頼らないように支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・本人の希望に添った入浴を行っている。入浴を嫌がる入居者については、職員間で引継ぎしたり家族の協力を得ながら行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・日中は活動的になれるよう、工夫を行っている。また、個人毎に昼寝の時間を調整し促すようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・生活歴を把握し、入居者ごとの得意分野などを発揮できるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・家族の協力を得て、お小遣い程度の金額を所持している方もいる。施設管理となっている入居者も、必要時には自分で支払いが出来るようお金を手渡している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出掛けられるよう支援している	・気分転換も兼ね、散歩など外に出る機会を作っている。・買い物や毎日の日課となっているので、希望時には一緒に出掛けている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出掛けられる機会をつくり、支援している	・日常の会話の中で出された希望に添いながら、外出支援に繋げている。・年に1回以上遠足の行事を設けている。		

項 目		○	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・入居者の希望に応じて、手紙や電話など活用できているようにしている。		
64	○家族やなじみの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人のなじみの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・家族から申し出があった時は、一緒に泊まっていたいでいる。・家族の仕事などの関係もあるので、面会時間は特に定めていない。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及びすべての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・項目の『11』と同様である。	○	・項目の『11』と同様である。
66	○鍵を掛けないケアの実践 運営者及びすべての職員が、居室や日中玄関に鍵を掛けることの弊害を理解しており、鍵を掛けないケアに取り組んでいる	・日中は玄関に鍵を掛けておらず、入居者が出かけた時はさりげない声掛けをし対応している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・日中は常に職員が1人共有スペースに居よう、職員間で取り決めを行い、実施している。・夜間も共有スペースで夜勤者は待機しており、そこで日誌等の入力を行っている。また、巡視は2時間毎行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取組をしている	・薬品・洗剤・刃物は施設管理とし、夜間など保管する際は鍵をかけている。・個人管理の裁縫道具などは担当職員が中心となり、針の本数確認を入居者と一緒に行っている。	○	・個人管理の裁縫道具などは担当職員が中心となり、針の本数確認を入居者と一緒に行っているが、今後は定期的実施する。
69	○事故防止のための取組 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・ヒヤリハットを記録し、会議の場で話し合い職員の周知を図っている。また、事故報告書も作成し、事故の原因や予防策を全職員が把握している。		

項 目		○	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、すべての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・急変時の対応としてマニュアルは策定している。	○	・定期的な救急法を研修で取り入れていないので、今後実施していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろから地域の人々の協力を得られるよう働き掛けている	・年2回の避難訓練や、消火器の使い方など、消防署の協力を得ながら、特養と一緒にやっている。・消防設備の点検は年2回(4月、10月)に行っている。	○	・非常用の飲料水や食料は準備していないので、今後災害に備えた物品を用意したい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・事故が起きた際は速やかに家族に連絡し、状況を報告している。・起こり得る可能性のあるリスクについての話し合いは、家族とは行っていない。	○	・会議の場で、個人毎の支援のなかでリスクについても話し合っているが、表にしてわかりやすい形に残し、家族に掲示し話し合う場を作りたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・体調の変化があった時は、特養看護師に報告し状態をみてもらっている。必要時には家族へ連絡し、通院していただく。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個人毎に薬のファイルを作成しており、薬が変更になった時は連絡ノートに記入し周知を図っている。・また、定期的に服薬したかどうかのチェック表で服薬忘れを防いでいる。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働き掛け等に取り組んでいる	・便秘がちな入居者には、家族と相談しながら繊維質の多い食材や飲み物などが摂れるようにしている。・日常生活の中での活動も、職員が意識しながら働きかけ、下剤に頼らない自然排便ができるよう心掛けている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・就寝前には義歯用の洗浄剤で洗浄できるよう、支援している。また、残根歯がある方にはイブジンを使用した歯磨きを行っている。	○	・就寝前の口腔ケアのみで、毎食毎の実施には至っていないが、今後は働きかけていく。

項 目		○	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・職員が立てた献立を特養の栄養士が確認し助言をもらっている。・食事や水分量のチェック表を記録することで、個人個人の状態を職員が共有している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・感染症対策のマニュアルを作成し、感染予防に取り組んでいる。・入居者職員とも同じようにインフルエンザの予防接種を受けている。・ペーパータオルを設置し、予防策も講じている。・玄関にうがい薬と手指消毒薬を設置し、外から持ち込まれるのを防いでいる。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・毎日買い物にでかけ、食材は新鮮なものを使用している。・まな板は毎晩漂白し、布巾類は朝に漂白することを職員間で周知徹底している。・生もの(刺身)については特養栄養士指導の下禁止期間を設け、実施した。・冷蔵庫整理の日をつくり、実施している。	○	・冷蔵庫整理の日を設け実施したが、今後は定期的に行ないたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関先にはベンチを設置し、プランターには花を植え明るい雰囲気になっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節感が味わえるよう、七夕飾りや雛人形など、その時にあった物を入居者と話し合いながら設えを行っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・外に喫煙所を設け、分煙を図っている。・ベンチにはクッションを置いたり、和室にコタツや座布団を置くことで、使用しやすい環境を作った。		

項 目		○	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居者が以前使用していた物を持参して頂けるよう、家族に伝えている。昔の写真や仏壇など、居室に設置されている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・温度計や入居者の状態を見ながら、室温調整を行っている。・換気扇を常時活用したり、トイレでは消臭剤を置いて悪臭が出ないようにしている。・入居者によってはこまめな換気や除菌スプレーを用いている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・和室の上り下りがしやすいよう、手すりを設置した。		
86	○分かる力を活かした環境づくり 一人ひとりの分かる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・水道の『冷』『熱』について、入居者がわかりやすいように職員側で赤と青で色分けを行った。トイレについては、備え付けの絵表示だけでなく、文字で判断できるよう掲示している。・居室ごとに表札を設置し、混乱しないようにしている。・洗濯機やポットの手順が分かりやすいよう、番号をふっている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・ベランダには洗濯物が誰でも干せるよう設置されている。玄関にはベンチを置き、休憩できるよう工夫した。小さいが畑も作り、昔畑作業をしていた入居者には積極的に取り組んでもらっている。また、入居者ごとのプランターも用意し、花に水遣りを行う事を役割の一つとして取り組んでいる。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる	○	①ほぼすべての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼすべての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼすべての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出掛けている		①ほぼすべての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼすべての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼすべての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼすべての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

様式8

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームになじみの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼすべての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼすべての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼすべての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・同じ敷地内に特養があるので、地域住民との交流を兼ねた大きな行事に参加できている。・特変のある入居者については細かく報告し、特養の看護師とは協力体制ができている。・昼食前と夕食前には嚥下体操を行い、誤嚥防止や食材が飲み込みやすいよう働きかけている。・午後のおやつ後にはリハビリ体操を実施し、日頃動かしていない体の部分をほぐすようにしている。